

歴代藩主家系



堀尾氏 慶長5年(1600)～寛永10年(1633)
24万石 松江開府の祖 **吉晴**



ほりお よしはる
堀尾吉晴

慶長5年(1600年)の関ヶ原戦の後、出雲・隠岐両国を拝領した子の忠氏と共に、遠江国浜松(静岡県)から月山富田城(広瀬)に入ったが、松江の将来性に着目して城地を移した。豊臣秀吉、徳川家康と二人の天下人に仕え、豊臣政権下では三中老の一人として功績を残している。城普請の名人であり、孫の忠晴を助け松江城と城下町を建設し、現在の松江市の礎を築いた。



京極氏 寛永11年(1634)～寛永14年(1637)
26万4千石 初代 **忠高**

きょうごくただたか
京極忠高



堀尾家の跡を継ぎ、若狭国小浜(福井県)から出雲に入国した。3年余りの短い統治期間であったが、当時、度重なる洪水で氾濫を起していた斐伊川を大土手により改修をした。現在でも京極若狭守忠高にちなんだ「若狭土手」という名を残している。また、幕府直轄領であった石見銀山(世界文化遺産)の監督権を与えられるなど、歴代松江藩主のなかで最大の領地を治めた。徳川二代将軍・秀忠と正妻・江夫妻の四女が忠高の正妻・初である。



松平氏 寛永15年(1638)～明治4年(1871)
18万6千石 初代 **直政**～10代 **定安**

まつだいらなおまさ
松平直政



京極家の跡を継ぎ、信濃国松本(長野県)から出雲に入国した。慶長19年(1614年)、14歳で大坂冬の陣に参戦し、初陣ながらも力戦奮闘した。敵将真田幸村は、その武勇を讃えて自らの軍扇を投げ与えたという。徳川初代将軍・家康の第二子・結城秀康の第三子である。

まつだいらはるさと ふまい
松平治郷(不昧)

松平七代藩主で、若い頃から茶禅の道を学んで独自の流儀を確立し、現在でも不昧流として継承されている。江戸時代後期の大名茶人で陶芸、漆工なども振興し、茶どころ松江の礎を築いた。当時逼迫していた藩財政を、家老・朝日丹波の「御立派の改革」により立て直した。



松江城
散策マップ

●本丸開門時間

4月1日から9月30日 午前7時～午後7時30分
10月1日から3月31日 午前8時30分～午後5時

●登閣時間

4月1日から9月30日 午前8時30分～午後6時30分
(登閣受けは午後6時まで)
10月1日から3月31日 午前8時30分～午後5時
(登閣受けは午後4時30分まで)

●年中無休

松江城山公園管理事務所

〒690-0887 松江市殿町1番地5
☎(0852)21-4030 FAX(0852)21-4211
http://www.matsue-tourism.or.jp/m_castle/m_castle.htm

国宝

松江城

